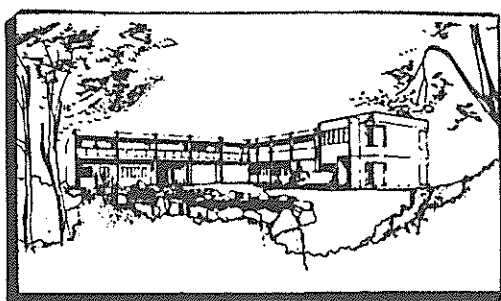


中央聖書学校 〈C・B・C・だより〉



マタイ四・一八―二五はヤコブとヨハネが主の弟子となつた場面であり、これはまた、聖職に召される召しの場面でもあります。人は多くの人物に影響を受けるものであり、私もC・H・スポルジョンから大きな影響を受けました。彼は私が生まれる八年前に世を去りました。従って私が二〇才の頃は人々が彼についてよく語ったり、書いていたりしていました。私も彼を目標とし、彼の「牧会入門」という著書をクラスで使用したこともあります。

さてマルコ一六・一五にはキリストが昇天直前に与えられた厳かな命令があります。これは特別な人々に向けられたものではなく、教会全体に対する命令であり、福音を伝える責任はすべての人に委ねられているのです。一方、主は世の中すべてとの関係を絶ち切つて、福音のために全力で働く職務を与えられるのです。そのような職務に任じられている人は、はつきりとし



燃ゆる火

校長 弓山 喜代馬

たその体験を持たなければなりません。その著しい例はイザヤであります。彼はウジヤ王が死んだ時、神の声を聞いたのです。召されて神の声を聞いて従つて行く者が必要なのです。もし自分が何か出来るからというので進んで行くな、とんでもないことになるでしょう。しかし、イザヤは自分が罪に汚れた者であることを知っていました。そしてセラピムの持つてきた火できよめられたことも知ったのです。この主からの経験を私達は持つていないはずで

今日のすべての聖徒は祭司であります。しかし、預言者、すなわち、聖霊に感じて自らを福音宣教に献げようとする者は少ないのです。パウロは「キリストの大使」ということばを用いていますが、これは神が私たちを通して語られる、すなわち和解の福音を委ねておられるからです。語るためには語る言葉をいただくかなければならないの

です。遣わされず、命令されなければ出て行けないのです。任命されなければ、神の使者とはなれないのです。入学された皆さんは、すでにこの体験をなさったはずで

本当に福音を委ねられた者であることと、神の言葉が骨の中に炭火のように燃えさかっているということです。じつとしてはおれない、何かの機会を捕えて伝道せずにはおられないという気持ちです。神学校に入る前は燃え続けていたのだから、これからも燃え続けようではありませんか、「骨の中に閉じ込められた火が炎となって燃えていること」が、あなたが召されている証拠である」とスポルジョンは言ったのです。

線香花火のようにパツと消えてしまふものではなく、命の限り燃やし続けようではありませんか。

またパウロは「福音を宣べ伝えなければならぬ私達はわざわいである」と言っています。私たちはあらゆる手段を尽して魂を主に導くべきであります。パウロはまた、「福音のためには何でもする」と言いました。神が「人間をとる漁師」としてあげよう」と約束しておられるのです。造りあげて下さる約束を与えられているのですから、信じて進んで行こうではありませんか。



吉沢雄吉 (金沢キリスト教会出身)

私は今から約五年前に、デンマークの首都コペンハーゲンにて、キリストの救いの恵みに導かれました。

それからまもなく、その教会の方々のすすめで、デンマークの聖書学校に入学させていただきました。私が真に献身の決意をしたのは、当聖書学校で、定期的に開かれていた伝道会の時で、みことばを通して、神の愛と偉大さ、そして自分自身の小ささを示され、同時に、日本に対する大きな重荷が与えられました。私が個人的救いを体験してからおよそ一年半の時でありました。それ以来、いよいよ主との交わりの深さ、そして新たな喜びが加えられました。その伝道会において、今



佐藤ゆきみ (金沢キリスト教会出身)

大学の冬、受洗後間もなく、私は一つの幻を与えられました。それは黙示録二二章の光景の中に自分がおり、突然、そこから走り出し、「私は素晴らしいものを見ました。どうぞ私といっしょに来て見て下さい!!」と狂わんばかりに人々に叫んでいる幻でした。

以来、その幻が心に焼きつき、薄らぐことがありませんでした。さらに折り、生活していく中で伝道者になりたという強い願いと、神がそれをお望みになっているという確信が深まってきました。

ところが心には迷いや恐れがあり、一歩踏み出すごとに深まっていききました。そんな私に大学三年生の夏、神は「私たちがすべてのためにご自分の御子をさえ、惜しまずに死に渡された方がどうして御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んで下さらないこと

中央聖書学校 学生募集!

宣教のビジョンに燃える若者よ!
駒込山に來りて学び祈ろう!

- 入学資格 (1)受洗後二年以上を経た忠実な教会員であること。
(2)高等学校卒業以上の者。
- 出願手続 所定の入学願書に必要事項を記入し、次のものを添えて本校事務局にメ切期日までに提出すること。
(1)最終学年の卒業または修業証明書、成績証明書。
(2)医師の健康診断書。
(3)戸籍抄本。
(4)入学検定料 5,000円。

試験日 追って通知。
試験場 中央聖書学校。
◎入学案内書は、教会の牧師に申し出て下さい。多数の献身者が応募されることを期待して祈っています。

献身者を支える

祈りの手

神学校のため、また神学生のための祈りは絶ゆることなく日本各地の諸教会によつてささげられておりますが、とりわけ、学校の経済面で大きな献金の後援会からささげられています。

神学校の通常会計の年間予算は本年度の場合二千二百三十万円です。この中、二百二十万円が後援会からささげられています。この献金のうちの二十万円は学校図書の実施のために図書献金としてささげられており、ここ三年



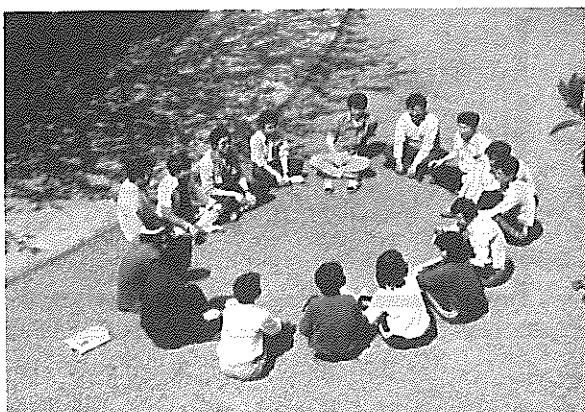
発行・一九八三年六月十五日
事務局 〒170・〇三九一八四九二五
東京都豊島区駒込二一五―一〇
中央聖書学校
編集者 石原嘉宣
山城晴夫

最高学年になって



山田 基実
(保谷キリスト教会出身)

満開の桜の中に迎えた入学式から、はや二年が過ぎました。この二年間は主御自身から、そして先生方、兄弟姉妹を通して多くの霊的訓練を受けることができました。教室での学びは御言を尚一層深く知りたいという情熱をかきたててくれます。また寮生活では、主と交わることの素晴らしさ、主をほ



めたたえることの素晴らしさを日々強く教えられています。そのような中で召された者として神への献身の思いがより深められていくのを感じています。残された一年、主はどのような訓練を用意して下さっているのでしょうか。すべてが良きものとなり、私にとって益となることと信じ、感謝して受けたいと思っています。どんな時でも御言に豎く立って、主に信頼し歩き続けるならば、主御自身が成長させて下さる信じます。主の御用に間に合う者となれるよう、残された神学校生活を折りつつ、大切に過ごしたいと願っています。

三年生に進級して



渡部 臨
(福島中央キリスト教会出身)

まことに、あなたの大家庭にいる一日は千日にまぎります。

詩篇84・10

三年生に進級して変わったことは、第一に授業内容が本格的になったことです。第二に奉仕の機会が多くなったことです。しかし、それ以上に変わったことは祈りです。毎朝の早天で力づけられ、金曜日の伝道会も魂が送られています。

献身の喜び



伊藤 正登
(日本チャーチ・オブ・ゴッド教団瀬谷キリスト教会出身)

『わたしについて来なさい。』

マタイ4・19

私が主からの召命を受けたのは、聖霊のバプテスマを受けた、高校二年生の時でした。それ以来主は、私を献身へと招き続けて来たのでした。やがて大学四年生となり、自分の将来について折り求めている時、「わたしについて来なさい」と、再び主の語られる声を聞きました。そして私はた

だその招きに応じ、ここまで従いついて来たのです。途中道に迷い悩んだ時もありました。しかし主は「これに歩め」と先立ち道を示し励まして下さいました。今この学び舎に導かれた私は、ここで世界の畑に出て行くための備えをし主の思いを我が思いとして、学びと訓練を喜んで受けていく決意です。これから何が起きるかわかりません。しかし、さらに主に喜ばれ、主の栄光を現わす器となるため、良き牧者なる主の御足の後に、いづくまでもつき従って行きたいと願っています。

C・B・Cの数字

卒業生総数	三八三名
在校生	
第二学年	十名
第三学年	六名
第四学年	三名
合 計	十九名
(内男子十四名、女子五名)	
教 授	九名
助教授	二名
講 師	二名

佐藤 羊一
(篠原教会出身)



「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい」(マルコ十六・十五)

この御言に従うため献身の一步を踏み出したことを感謝します。神様はいつも最善の道を備えて下さいました。特に大学四年の一年間は、今までおぼろげであった献身への思いを、主は高めて下さいました。そして、神様に対する信頼と服従が、心の中を占めるようになりしました。今迄の自分はどれだけ神様に信頼し従っていたのか、神様は更に多くの服従を願っているのではないかと。確信を求めて祈っていました。そして、昨年の八月母教会のキャンプにおいて、祈りのうちに神様の召しを確信しました。



田中 義弥 (沖縄隣人教会出身)
「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」(ヘブル十

二・二二

私は牧師の家庭に生れ育ちました。多少の反発は感じながらも、御言は徐々に心に入ってきて、ほぼ順調に救いに至りました。

しかし、献身と云うことは全く別で私は牧師にだけはなりたくないと思っていました。ところが、ビリビ二・二三のように、神様はその願いをも起こして下さいました。大学二年の時、父が私に言いました。「お前に牧師になつてもらいたい。」それ以来あれ程嫌いだつた牧師になりたいと云う思いが強くなって来ました。そして神様は昨年の十月、弓山師を通して冒頭のヘブル書の御言を語って下さいました。

主イエスを見上げて歩むなら、神様は私を通して御業を行なって下さる、そう信じて、私は自分を献げました。主を賛美します。



中山 規夫 (志村キリスト教会出身)

「いよいよ時が満ちた」と云う気持ちです。今私は、全てを献げるのに価する働きが道が主より与えられたことで心は喜びで一杯です。

一九七六年の秋に初めて教会に導かれました。苦しんでいた悩みが解決さ

れて平安な教会生活を送っております。

しかし全てが満足できる状態ではありませんが「献身」と云う思いが漠然と起つてきました。

一九八〇年に十二指腸潰瘍で入院したときに、それが明確なものとされ、「献身」の誓いを立てました。その後、昨年の訪韓信徒大会の時に、そのことについて非常に強く折られました。その結果、御言では、第二ペテロ一章十節と続いて夢の中でもはっきりと導きが与えられました。

私の内におられる主イエス・キリストを証し、滅びゆく人々に福音を語ることの出来る者となるように、十分な学びと、厳しい訓練を受けたいと願っています。

中山 洋雄 (金沢キリスト教会出身)



私の如き者をこまで導いて下さった神の驚くべき導き、愛に心より感謝している次第です。

私は大学卒業後、建設会社の現場事務所で施工図を書き、それを管理する仕事を与えられました。この仕事は突完工事であるため、聖日を守る事が大へんでした、聖日礼拝を守ることが

当時の私の祈りの第一の課題でした。

しかし、神は私に知恵を与えて下さいました。それは日曜日前四時まで仕事をし、伝道集会終了後、また現場へ行つては仕事をするということでした。この方法で聖日礼拝を守り、また会社にある伝統的偶像礼拝に完全に勝利した時、献身の道が開かれました。

感謝な事に、私には母教会において二年間の訓練の時が与えられました。この二年間の奉仕を通して、さらに神の召しを確信しました。この神の召しに、ふさわしく歩む為、三年間しっかり学んで行きたいと思っています。



藤井 敬朗 (高槻伝道所出身)

昨年八月頃より、心の中に何かいつもと違う気持ちが起り、何のこともなく折れて行つて、神の国を言い広めなさい。」と云う御言が与えられました。しかし中学校教師五年目を迎え、毎日が大変楽しく過している時です。伝道者になれ、と云う意味だと困ると思います、主の御旨を求めて祈りました。そして九月二十四日の朝、イザヤ書を読んでいますと、「だれを遣わそう...ここに私がおります。私を遣わして下さい。」と云う御言